

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	基底細胞癌、扁平上皮癌	
	タイプ	医学専門情報	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Radiotherapy for epithelial skin cancer	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	B C C C Q 1 1 - 6	
書誌情報	研究デザイン	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1 つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（ I V ）	
	Pubmed ID	11697321	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Int J Radiat Oncol Biol Phys	
	雑誌 ID		
	巻	51	
	号	3	
	ページ	748-55	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	2001 年	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Locke J	ワシントン大学 Mallinckrodt 放射線研究所
その他著者 1		Karimpour S	同上
その他著者 2		Young G	同上
その他著者 3		Lockett MA	同上
その他著者 4		Perez CA	同上
その他著者 5			
その他著者 6			
その他著者 7			
その他著者 8			
その他著者 9			
その他著者 10			

一次研究の 8 項目	目的	上皮性皮膚癌の放射線治療後の治療成績、再発形式、整容性を遡及的に検討する	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	ワシントン大学 Mallinckrodt 放射線研究所	
	対象者	上皮性皮膚癌：468 例 531 部位（初回治療：364 部位、再発治療：167 部位） 基底細胞癌：389 部位、扁平上皮癌：142 部位 部位：基底細胞癌（頭頸部 361 部位、体幹部 28 部位） 扁平上皮癌（頭頸部 118 部位、体幹部 24 部位） T 病期：基底細胞癌（T1；258 例、T2；68、T3；19、T4；15） 扁平上皮癌（T1；62 例、T2；37、T3；15、T4；16）	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （3）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （15）	
	介入（要因曝露）	電子線、表在 X 線、コバルト、超高压 X 線を腫瘍の進展度から主治医が判断し選択。 電子線 19%、表在 X 線 60%、電子線＋表在 X 線 20%、超高压 X 線 <2% 範囲：腫瘍として認識できる範囲＋1cm マージン 一回線量：<2 Gy／回～>4 Gy／回（詳細の記載なし） 総線量：<40 Gy～>60 Gy（詳細の記載なし）	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	局所制御率	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	2	局所制御率に与える予後因子	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	3	整容性	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	4	有害事象	1.主要 2.副次 3.その他（3）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）

	主な結果	全体の局所制御率：89%（初回治療例：93%、再発例：80%） 基底細胞癌の局所制御率：92% 扁平上皮癌の局所制御率：80% 一回線量（2.01Gy 以上）、腫瘍径、組織型（基底細胞癌：扁平上皮癌）が局所制御率に影響を与える独立した因子 線質および分割回数は局所制御率に影響を与えていない 92%が整容性で良好 5.8%で有害事象（結合組織の壊死）
	結論	放射線治療は皮膚癌に良好な局所制御と整容性が得られ、有害事象は少なかった。再発病巣の制御は不良であるが、早期の再発であれば制御可能であり、積極的に放射線治療を行うべき。
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	鹿間 直人
	レビューワーコメント	後ろ向き研究であり、線量、分割、総線量、線質などを頻回に解析しており、多重解析の可能性が高い。結果の解釈には慎重を要する。 レベル IV